

童男山古墳の近くに、2003年徐福像建立委員会によって建てられました。



筑紫平野

徐福が持ち込んだ稲は肥沃な九州北部の平野で育ち、ここから日本全国へ広まったのかもしれない。特に、佐賀県には多くの伝説が残っているので、「平原広沢を得て王となりて帰らず」と史記に書かれている「平原広沢」は筑紫平野を含む九州北部一帯を示すのかもしれないのです。

③-5 鹿児島県の徐福伝説



「徐福求仙登蓬莱之像」日本一の徐福像（鹿児島県いちき串木野市）



徐福像は冠岳を背に東シナ海を見ている

マグロの漁獲量が多く遠洋漁業の基地として有名な港がある鹿児島県いちき串木野市には高さ日本一（像の高さ6m、台座の高さ2m）の徐福像があります。この像は市政50周年を記念して2000年11月に徐福展望公園に建立されました。中国の秦皇島市には徐福の帰りを待ち望む始皇帝の像があり、これと向きあうようにして建てられたそうです。

蓬莱の地を求めて大船団で船出した徐福一行はここいちき串木野市の海岸に上陸しました。霊峰冠岳（かんむりだけ）は薬草が多く自生する山で、不老不死の薬草があるに違いないと思ったからです。佐賀県の伝説を考慮すれば、佐賀から船出し、九州西海岸沿いに南下した一行がここ串木野にたどり着いたと考えるのが自